

## #編集後記 かもしれない運転

中川家という漫才師をご存知でしょうか？

「路上教習（自動車教習所）」という大好きなネタがあります。

（教官） 「かもしれない運転」を心がけてくださいな。

右折する時は対抗車の陰からバイクが飛び出してくるかもしれない。

（生徒） あーなるほど。

（教官） 駐車している車と車の間から子どもが飛び出してくるかもしれない。

（生徒） なるほど。 あっ！ キキーツ！（急ブレーキ）

（教官） 危ないなあ。どうしたんですか！？

（生徒） すれ違った人・・・、友だちかもしれない。



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail [avenir4you@gmail.com](mailto:avenir4you@gmail.com)



かもしれない

僕はこの漫才で、この「かもしれない運転」という言葉を思い出しました。

誰でも事故を起こさないように気をつけて運転しているはずなのに、現実には自動車事故はなくなりません。ほんのちょっとした「かもしれない」という意識があつたら事故は減るのでは、とされています。

僕自身は車を運転することがないペーパードライバーですが、この「かもしれない」という考え方は、先入観や今迄の価値観で突き進むことの難しい今の時代に、なんだか合っている気がします。

感染が収まらない新型コロナについても、マスクはうつらないことよりもうつさない為のもの。自分もウィルスに感染している「かもしれない」とみんなが思って慎重に行動すれば、ここまで感染拡大しなかったかもしれません。オレオレ詐欺等の特殊詐欺にあう人も、ハラスメントや学校のいじめも、自分自身の行動や考え方を客観視して、「かもしれない」と立ち止まることができれば、減るように思います。

それは、運転の自己評価が相対的に高い高齢者ドライバーにも言えるでしょう。それから、「仮定の質問には答えられません」と答弁する総理大臣にも。2ヶ月先もわからない今のご時世。リーダーがいろんな選択肢を頭ごなしに否定する姿勢を見せるのはいかかなものかと思うのです。心に余裕が無いように映ります。

厚生労働省は、LGBT当事者を支援する団体から履歴書様式の改善を求められたことをきっかけとして、**履歴書様式を新たに決めました**。その様式では、性別欄は「男・女」の選択ではなく、

**任意記載欄**に変更され、性別未記載でも問題が無いように改定されています。

面接等で適切な方法により性別を確認することは可能としていますが、会社の男女のバランス上の理由や、制服等といった実務上の問題で性別の確認が必要な場合はその理由を説明するよう求めています。

必ずしもこの様式を使う必要はありませんが、今後、社員の募集にあたってはあえて性別を記入しない応募者も出てくると思います。

履歴書を見て、男性かも女性かもと、頭を悩ますようなこともあるかもしれませんね。



ラグビートップリーグは、負ければシーズン終わりのトーナメントに突入し、いよいよ23日の決勝戦を残すのみとなりました。今季限りで引退し、医学部に入学して医師を目指すことを表明している**福岡堅樹選手**が凄まじいプレイを見せています。所属するパナソニックが決勝（日本選手権）に残り、福岡選手のプレイを最後の最後まで見ることを僕は幸せに思います。 **※決勝の結果パナソニックが優勝(5/23 追記)**  
また、海の向こうのメジャーリーグでは、二刀流で奮闘する**大谷翔平選手**が、なんとリーグトップの本塁打を打っているという、これもまた凄い活躍。

福岡堅樹選手も大谷翔平選手も、数年前まではありえないと思われていた自分の夢に挑んでいます。

「かもしれない」というのは心の余裕であり、「可能性」です。その人の「伸びしろ」です。

僕たちは今、これまで想像もしていなかった事態に遭遇しています。

そして今まで当たり前だったことが、当たり前ではなくなってきました。

「・・・かもしれない」という発想には、新しい未来が広がっているように感じませんか？ (^-)-☆



壊れてませんよ